

## 国内企業向けネットワーク機器市場予測を発表

Japan, 2020年4月27日 - IT専門調査会社 IDC Japan 株式会社 (所在地: 東京都千代田区九段北1-13-5、代表取締役社長: 竹内正人、Tel代表: 03-3556-4760) は、企業向けイーサネットスイッチ、企業向けルーター、企業向け無線LAN機器で構成される国内企業向けネットワーク機器市場予測を発表しました。

2019年の国内企業向けネットワーク機器市場は、2018年に続きプラス成長を達成しました。2019年の前年比成長率は3.5%で、市場規模は2,456億9,200万円でした。2020年以降は、ネットワークアクセス手段として無線を第一に考える「ワイヤレスファースト」のさらなる浸透によって企業向け無線LAN機器市場は成長を続けます。同市場の2019年～2024年の年間平均成長率 (CAGR: Compound Annual Growth Rate) は、支出額で4.8%と予測しています。一方で、イーサネットスイッチとルーター市場はマイナス成長に転じ、企業向けネットワーク機器市場全体の2019年～2024年の年間平均成長率 (CAGR: Compound Annual Growth Rate) は、マイナス2.5%と予測しています。

また、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、経済状況の悪化や企業活動の低迷によって2020年の企業向けネットワーク機器市場に影響を与えるとみています。企業向け無線LAN機器市場は、GIGAスクール構想実現に向けた無線LAN環境整備や、Wi-Fi 6へのリプレースの本格化といった力強い市場押し上げ要素はありますが、経済環境の悪化の影響を受け、支出額は2.7%の増加に留まるとみています。ルーターとイーサネットスイッチ市場はマイナス成長を見込んでいます。

マイナス成長に転じる企業向けルーターおよびイーサネットスイッチ市場にも、需要喚起が期待できる要素はあります。ルーター市場においては、10Gb光ブロードバンドサービスの本格化は、ルーターのリプレース機会増加が期待できます。イーサネットスイッチ市場では、ワイヤレスファースト

の動きを有線LAN環境見直しの機会と捉えることで、マイナスの要素もプラスに転化できるとIDCでは考えます。

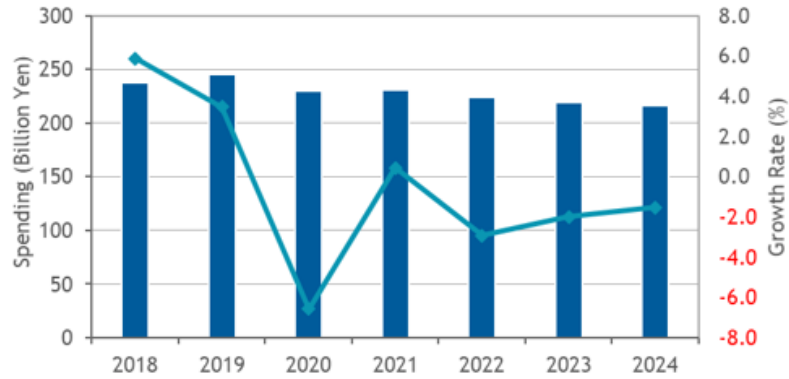
IDC Japan コミュニケーションズグループマネージャーの草野 賢一は「企業向けイーサネットスイッチベンダーも、ワイヤレスファーストに最適化した有線LAN環境とは何かに応える提案を製品 / 販売戦略の中心に据えるべきである。そして、ワイヤレスファーストを脅威と捉えるのではなく、有線LAN環境刷新の貴重な機会と捉えるべきである」と述べています。

今回の発表はIDCが発行した国内企業向けネットワーク機器市場予測、2020年～2024年にその詳細が報告されています。本調査レポートは、企業向けイーサネットスイッチ、企業向けルーター、企業向け無線LAN機器で構成される国内企業向けネットワーク機器市場に関して、2020年～2024年の市場予測と今後の展望を提供します。

#### < 参考資料 >

国内企業向けネットワーク機器市場 支出額予測、2018年～2024年

Figure 1



Notes:

- 企業向けルーター、企業向けイーサネットスイッチ、企業向け無線LAN機器の合計値
- 本市場予測は、2020年3月末時点における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響および見通しを考慮したものである

Source: IDC Japan, 4/2020

IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. Additional information can be found at [www.idc.com](http://www.idc.com). All product and company names may be trademarks or registered trademarks of their respective holders.

For more information contact:

jp-Press Japan  
 jp-press@idcjapan.co.jp  
 +81-3-3556-4768